研究

～安野家所蔵の寄合書から見る～
明治初期の徳山の文化人たち

会員　栗﨑　健

徳山藩絵師として活躍した一族に安野家の人たちがいる。安野家の祖「阿武家」初代は外傳宗雲、その弟は龍文寺二十一世及び興元寺五世住職笑峯守三和尚である。三代目善之丞晴之が寛文年中徳山藩に出仕、その二男四代目長兵衛晴兼のとき徳山藩改易がおこり流浪断絶となった。五代目六郎左衛門晴俊は現在の地、舞車に居住しており、その長男が後の朝倉南陵である。（郷土史四四号『徳山藩絵師朝倉南陵』系図掲載）南陵は甥丹蔵敬美を絵師として育てあげ、徳山藩絵師として出仕させることになり阿武家は再興となった。

再興初代敬美の長男善平晴充が二代目家督を継ぎ、天保八年（一八三七）「阿武」を「安野」に改姓した。晴充も絵師として活躍、天保九年（一八三八）二月、藩士として巡見上使御用掛を仰せ付かり、八月にはその労に対し、御客屋にて御酒を賜っている。三代目は保五郎晴秋、号を華嶺といい、幕末、明治、大正と長く画家として活躍した。明治初期には、徳山藩絵図方として、藩士石田仙治方正を手伝役とし、徳山藩内の地域地図を多数作成している。これらは安野家当主六代目安野英昭氏が所蔵されている。華嶺については詳しく後述する。

さて、表題の「寄合書」であるが、安野英昭氏所蔵の寄合書三枚（うち二枚掲載）の筆者を調べてみた。

大きさ　122cm× 61.5cm

明治一〇年から一一年にかけて制作されたと思われる。

大きさ　131㎝× 62.5㎝

奥田蘭雪（一八三二－一八九二）
本名奥田義民。耕太夫、乗介他。
長穂村町田善十郎三男、医師山下順庵泰明は実の兄。
徳山藩士。画家。柳田雲屋、山本琴石（津和野藩）師事。
蘭雪は、寄合書三枚すべてに書と絵を寄せている。
墓碑は周南市金砂山福田寺にあったが、令和三年（二〇二一）に撤去された。その隣には「奥田政子墓」があり、清心院淨室良範大姉、明治三九年（一九〇六）一〇月二一日、姫路にて卒と刻まれていたが、同様に撤去された。
戒名清風軒灑誉蘭雪居士。

青木西峰（一八二七－一八九一）
本名青木拳。三郎兵衛、恒祐、籌、忠蔵、子服他。
一時光井五郎左衛門鎮成養子。徳山藩士馬廻青木三蔵忠景四男、母は鳴鳳館三代教授長沼采石長女。四代祖に文学者青木葵園がいる。
徳山藩士。代々馬廻役、また、学館出勤の文学者。
父俊司忠良もまた文学者で鳴鳳館訓導役。詩文の『瀟洒会』同人でもあった。
西峰は安積艮斎に師事。戸田安整墓碑（大成寺）文撰、井上棣斎墓碑（福田寺）文撰及び書。薫陶を受けた者多し。漢学教授。武道においても献功隊参謀をつとめた。
明治一三年（一八八〇）徳山中学初代校長。村会議員。
墓碑は市営泉原共同墓地。飯田竹塢碑文撰、楢崎碧渓書。
戒名對松軒終譽西峰居士。

福間凌雲（一八〇七－一八八五）
本名福間壽昭。五郎兵衛、刑馬、春水堂、一内他。
徳山藩家老。当職。幕末は常に正義派（革新派）を支え、殉難七士の事件の時は、革新派首領として切腹を迫られたが藩主毛利元蕃はこれを許さなかった。鳥羽伏見の戦いのときは世子毛利元功に随従、補翼の任に当たる。騎馬射芸に秀で、画家でもあった。
墓碑は自然石、大迫田金剛寺。妻キタ大成寺共同墓地。
戒名凌雲院釋泰然壽昭居士。
同じ寄合書に長男蕃雄（家老当職）の号、雲外の名も見

えるが当人という確証がない。

原友石（＊一八二六－不明）＊年令から逆算 以下同

本名原忠載。克次郎、泰蔵、林吉他。

妻は殉難七士信田作太夫の妹。

徳山藩士。画家。歌人。

安政元年（一八五四）大阪蔵屋敷目附役、文久年間には京都前衛へ。慶応三年（一八六七）両人役拝命。

『徳山市史史料下』に和歌、『橙堂遺稿補遺』に漢詩が掲載されている。

小川松泉（＊一八〇八－一八七八）

本名小川基孚。茂介、辨次他。

徳山藩士河野代八通明二男。長男基肇、二男其俊、両人とも、慶応元年（一八六五）徳山藩有志血盟書に血判した正義派。二男其俊は後の陸軍中将河野通好である。献功隊伍長となり、伏見鳥羽の戦いに従軍。また西南役、日清、日露戦争に従軍。各戦地の功績により従四位勲二等功四級に叙された。明治三五年（一九〇二）、児玉源太郎に代わり児玉文庫設立を申請している。

松泉は江戸の春木南冥に師事。長府毛利元功が毛利元蕃と養子縁組の際、文久元年（一八六一）祝儀使者として御進物等を長府へ。その労につき、銀二両頂戴した。

墓碑は自然石で金砂山福田寺にある。

田村耕雲（＊一八〇六－一八八八）

本名田村義明。忠太、明、與十郎、竹里館、雪和他。

徳山藩士。俳人。画家。父は田村権太夫義文。

権太夫は藩主毛利元蕃に輿入りした長州十代藩主毛利斉熙の三女八重姫の入輿御用掛を仰せ付かっている。

耕雲は文武に優れ、俳人として美濃派系統を継いだ建咲院十八世其山坊の三代目として活躍。武道では槍術の長浜左司馬より大島流槍術を伝授され、信田作太夫や浅見安之丞らと頭角を現した。音楽にも才能を発揮したという。明治元年（一八六八）、御世帯方を蔵本と改称、馬廻格両人役次席蔵本頭人役を仰せ付かっている。

長男義方は児玉源太郎と同期で、中央での活躍を期待されたが、父母の膝下にあり、故郷離れがたく、凌雲の志を抑え、銀行員の傍ら、明治の徳山の町に西洋雑貨店を開いたという。

墓所は金砂山福田寺にあったが、近年、田村家の家督が途絶えた事により耕雲の大きな自然石の墓碑は砕かれ、一族の墓とともに墓仕舞いされた。その後、末裔の方が、木箱に収められた田村家の家譜を福田寺に寄贈された。戒名大叢軒知竹耕雲居士。

南天棒和尚（一八三九－一九二五）

本名中原鄧州。白崖窟、塩田孝次郎、慶助、全忠他。実父は唐津藩士塩田壽兵惟和。児玉源太郎、乃木希典らに影響を与えた臨済宗の傑僧。明治二年（一八六九）、徳山藩主毛利元蕃の招きで、初めて住持職に就いたのが徳山藩毛利家菩提寺般若山大成寺である。松島の瑞巌寺の住職であったことは有名で数多くのエピソードを残しているが、大成寺においても「孫の代まで大切に保管せよ。」と自ら箱書きした開山和尚の傳法衣を収めた漆塗りの箱等、数多くの寺宝を売り飛ばして大成寺を去るというエピソードを残している。廃仏毀釈の時代のことで、瑞巌寺時代も同様、さすがの南天棒も苦心したようである。因みにその傳法衣は、近年、関係者より奇跡的に大成寺に返還され、今は大成寺本堂に大切に飾られている。南天棒は大成寺を明治一七年（一八八四）に退院した。著書に『南天棒行脚録』、『南天棒禅話』などがある。この寄合書には「一曲両曲無人会雨過夜塘秋水深」と禅語を引用している。

佐伯快菴（一八二九－一八八九）

本名佐伯鼎造。惟功他。

徳山藩士。藩医。徳山藩士佐伯春秀長男。

山崎隊所属、四境戦争では小倉口へ出征、伏見函館戦争従軍、脱退騒動にも出陣している。

第二次長州征伐時には野戦病院の第三病院総官に任命され、弟（三男）の医師厚禮とともに勤務している。弟（二

男）弥四郎景略は正義派に属し、血盟書に血判した。墓碑は大迫田金剛寺。墓碑の剥離により戒名読めず。

福田半僊（一八一一－一八九八）

本名福田正憲。白水、四郎兵衛他。

福川本陣十代目。漢籍に通じ、和歌、弓術を烏丸卿に学びその達人といわれた。寺小屋経営、七十余名の生徒に読書、習字を教えた。半僊は字も絵も堪能であった。「半僊先生の碑」に「書恩不尽」と徳山毛利家十代毛利元功が書を寄せている。裏面には「書の恩思い忘れぬ事とてたてて金石八千世もつきせず」門人中とある。

墓碑は福川真福寺。

塩屋潔（＊一八三七－不明）

本名同じ。三吉清之丞他。

小幡一格の養子となる。後、改姓。家老小幡修禮後裔。

徳山藩士。山崎隊練兵塾改め献功堂教練掛。実は徳山藩士馬廻三吉武平保璋四男。兄文右衛門保治は日置流及び、竹林流皆伝、学館助教。京都に上り北垣知事の演武場（体育場）設立なるや大島流槍術弓術主席教師となる。

潔もまた文武両道で、俗論を主張する者は死せんとする正義派に属し、徳山藩有志血盟書に血判した。

母方祖父は書道家牧弼将郷である。また、親戚にあたる三吉長甫古賁の妻は家老福間壽昭の妹である。

二枚の寄合書には迫力ある墨跡を遺している。

岡山酔谷（＊一八一八－不明）

本名岡山杢兵衛。岡直温、直貞、量祐他。

徳山藩士。画家。徳山藩士杉浦権左衛門保之三男。

嘉永元年（一八四八）徳山藩士祐筆岡敬明の家督を継ぐ。後、「岡山」に改姓。最初の妻は、寄合書をともにした田村耕雲の妹である。甥ふたりは正義派で血盟書に血判。寄合書には見事なかぶの絵を描いている。

安野華嶺（一八四二－一九一七）

本名安野晴秋。保五郎、男列、烈他。

徳山藩士。画家。徳山藩士長西甚平正親の二男。兄は俳人長西六瓢園含翠。六瓢園は本名栄次信順。徳山村代々小路に住み寺小屋を嘉永元年（一八四八）三月から明治三年（一八七〇）一二月まで開業。七草吟社六代目。

華嶺は、明治画壇で活躍した大庭学僊に師事。大庭学僊は朝倉南陵に師事していることから安野家とは深い交流があったと思われる。安野家には学僊の絵図も所蔵されている。

文久三年（一八六三）には阿米碑を製作し恩賞銀三枚を賜った。また、白蓮女学校（後の徳山女学校）を設立した赤松安子の少女時代の絵画の師である。赤松安子著の『清淑院全集』に、「寄華嶺先生」と題し、「寂寞梅天客恨孤 僑居無友共清娯 請君千里携仙筆 為写東山雨後図」という漢詩を載せている。

華嶺と地図制作を共にした石田仙治は明治一一年（一八七八）二七歳という若さで逝った。「寂しい梅雨空にひとりを恨む、ともに楽しんだ友はなく」この漢詩は、まさに「千里筆を携え」藩内の地図を精力的に描いてまわった華嶺が、苦楽を共にした仙治を悼む詩にも思える。

安野英昭氏所蔵の地図は次の通り

徳山邑之内栄谷御立山絵図、同風呂ヶ迫弐歩一間之割合画図、同舞車弐歩一間之割合画図、同泉原弐歩一間之割合画図、同辻弐歩一間之割合惣図、同河原五歩十間之割合惣図、同岡田原新田惣絵図、金剛山竹ヶ浴新田実測二分一間之割合図、遠石新旧開作画図、富田村字中開作、福川村柏屋新田図、東山惣絵図、金剛山林相図、大道理大向両邑大図ほか。

安野家は広大な丘の上にあり、俗に安野山と呼ばれ、屋敷の北には九ノ森が広がっていた。その屋敷は「梅屋敷」と呼ばれ、今はマンションに変わったが、二階のある「梅屋敷」に昼夜仲間が集まり、語らい、寄合書を描いていたようである。

それぞれの人間関係を見ると、原友石の妻は殉難七士の信田作太夫の妹であり、田村耕雲は作太夫の叔父にあ

たる。また、岡山酔谷は耕雲の妹を妻としていた。
また、ほとんどが徳山藩士であり、藩主元蕃から絶大なる信頼を得ていた家老当職福間壽昭こと凌雲がメンバーにいることからか、正義派の多くが参集している。
しかし、当時三十代から七十代と年齢差もあり、また、幕末維新という混乱期の記憶が、まだまだ生々しく残っていたであろう人たちが、立場や身分を超えて集まっていたわけで、何を語り合っていたのか興味が尽きない。

マンション建設のため解体される前の安野邸。
中央が二階建になっていたがシロアリ被害により撤去。慶応元年新築という史料が遺っている。

＜泉原画図二歩壱間之割合大画図＞
左上は右の大図を折りたたんだもの。
大きさ 縦 27㎝×横 19㎝。
（次頁写真 左から二番目）

「寄合書」にはその他久野雪嶺、伊藤雪山らの名前が見える。筆者不明もあり。

参考までに、平成元年（一九八九）に山口県教育委員会より出版された『徳山毛利家歴史資料目録』に紙本墨画「徳山人詩画寄合書」（一三四・三×五九・三）があり、筆者目録に楢崎碧渓、入江石泉、川合裕、金子正煥、宮崎新三郎、浅田伴右ヱ門、中原鄧州、福間寿昭、兼常仙介の名前が記されている。

また、兼崎茂樹著『徳山名士墳墓掃苔録』に「棟居五石先生書ヲ善クセリ同時代ニ書ヲ善クセシハ奥田蘭雪先生アリ小川松泉先生アリ安野華嶺［ママ］アリキ竹ヲ画カキ有名ナリシハ田村耕雲先生ナリキ安野ヲ除ク外墓ハ福田寺ニアリ此外ニ岡山酔谷先生アリ指頭書ヲ善クセリ久野雪嶺津本柳塘原友石（忠載）大成寺永保福間凌雲（五郎兵衛）アリ」と安野氏所蔵の「寄合書」と名前がほとんど一致する。

安野家には、著名な画家の絵図や江戸時代の書籍、写真など貴重なものがたくさん遺されている。

また、多数の文書も保存されていて、読み解けば、明治初期の文化人たちの隠されたロマンを発見できるかもしれない。今後の研究を楽しみにしたい。

〈安野保五郎晴秋〉

ガラス乾板　安野氏蔵

ガラス板に感光した貴重な写真　安野英昭氏蔵

徳山藩士兼﨑橙堂肖像画 安野華崗筆
（兼﨑地橙孫顕彰会蔵）

［参考文献］

福間・田村・安野家家譜

徳山毛利家文書　譜録　山口県文書館

徳山市史上　徳山市　一九八四年

徳山市史史料上・中・下　徳山市役所　一九六四～六八年

新南陽市史　新南陽市　一九八五年

新南陽市の生活と祈り　新南陽市教育委員会　一九七六年

徳山名士墳墓掃苔録　兼﨑茂樹著　一九一九年

橙堂遺稿補遺　兼﨑茂樹著　一九一七年